

発掘だより No. 14

平成2年8月25日(土) 豊川市教育委員会社会教育課

前通遺跡発掘調査の中間報告

1、前通遺跡の概要

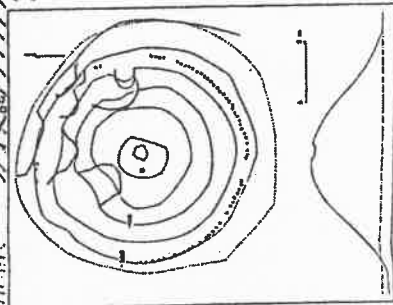
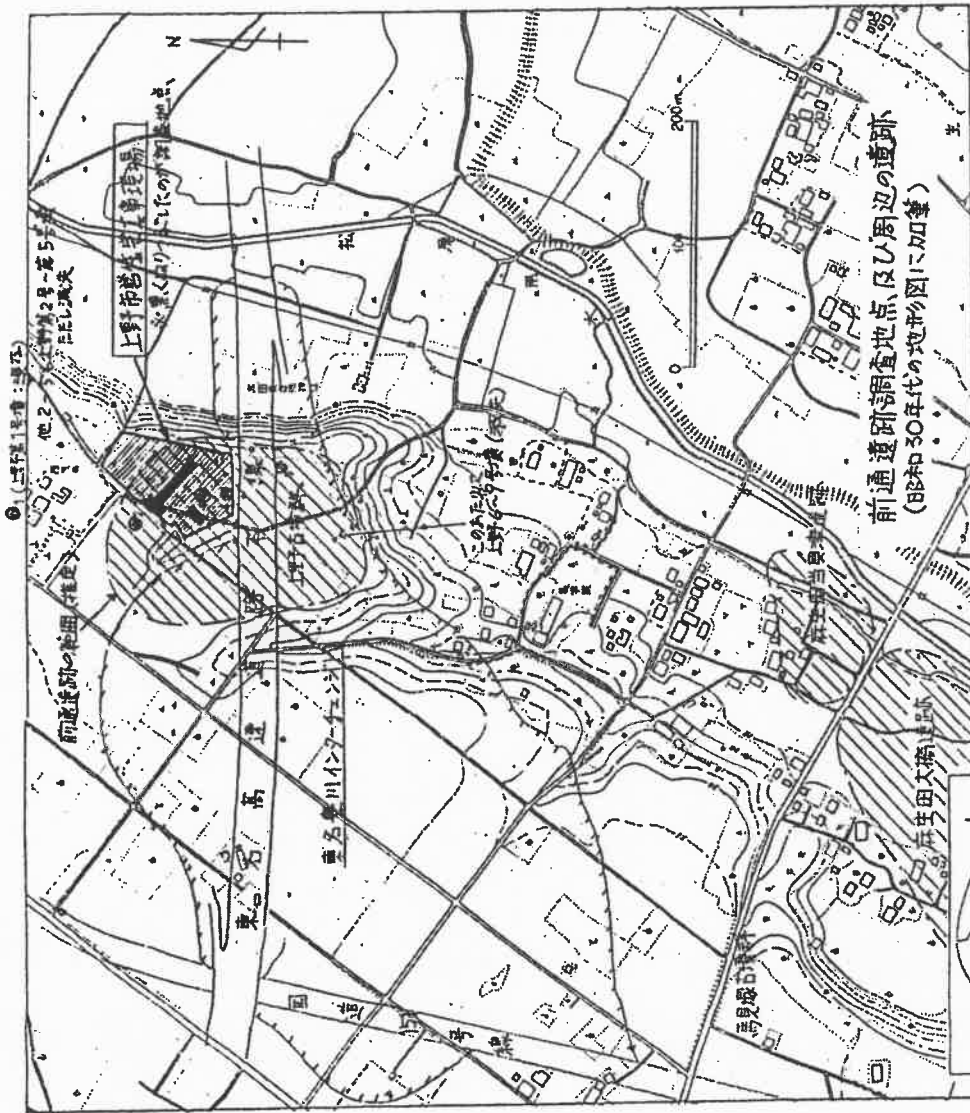
前通遺跡は、豊川市上野二丁目の市営住宅工事現場において確認された弥生時代を中心とした遺跡であり、現在、新築建物の基礎工事で破壊される部分(約600㎡)の発掘調査を行っています。

この遺跡は、昭和37年と39年に実施された上野古墳群の調査の時に、古墳の盛り土の中から弥生土器と一緒に出土したことからその存在が予想されていますが、発掘調査を行ったのは今回がはじめてです。周辺の地形から推定すると、この遺跡は現在の東名豊川インターにかけかなりの広がりをもっていたと考えられます。

2、周辺の遺跡

前通遺跡の周辺には、次のような遺跡があります。

- (1) 麻生田大橋遺跡
縄文時代の終わり頃を中心とした遺跡であり、土器棺墓が多く発見された遺跡として有名です。弥生時代中期の方形周溝墓も発見されています。また古墳時代や奈良・平安時代、中世の住居跡なども発見されています。
- (2) 麻生田当貝津遺跡
縄文時代中期末から晩期の遺跡です。
- (3) 上野古墳群
西光寺本堂の西側に上野第1号墳があります。かつては第9号墳までありましたが(いずれも円墳)、今は第1号墳しか残っていません。第2号から第5号墳までが昔の市営住宅建設やインター建設の際に調査され、第5号墳は周囲に円筒通輪をめぐらせた古墳であることが確認されました。



上野5号墳出土通輪
豊川地域文化広場で展示

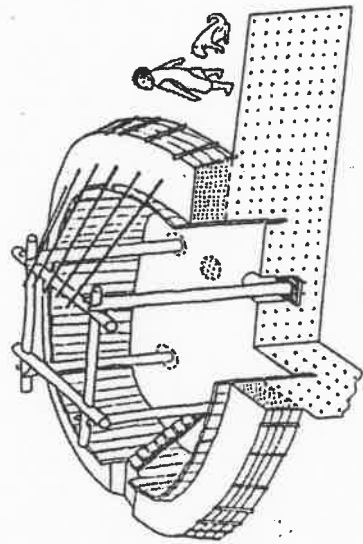
上野5号墳丘図

3、検出された遺構

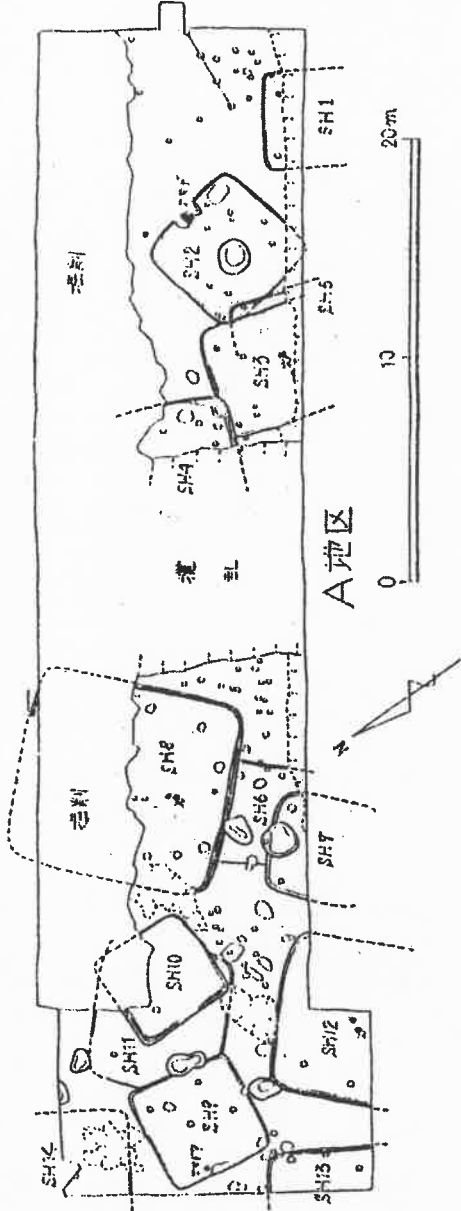
A地区だけでも計14棟の竪穴住居跡が確認されました。弥生時代後期前半の山中期（寄道期）のものが多く、この時期に大きな集落が形成されたと推定されます。また、奈良時代の竪穴住居跡や、時期不明・性格不明の土坑なども確認されています。

竪穴住居跡のうち弥生時代の第8号住居は一辺約9mの規模をもち、床面積は畳50畳分に換算できます。当時の竪穴住居としてはかなり規模の大きなものです。

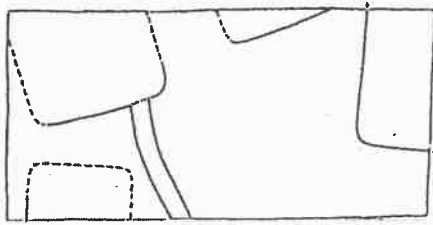
※ B地区でも竪穴住居跡4棟、溝1条などが確認されています。



竪穴住居の復原 弥生時代の竪穴住居の構造を示す。家の周りに土を土手状にめぐらせていたという考えによる。都出比呂志氏原図。



B地区



前通遺跡調査区全体図

竪穴住居跡 (SH) 一覧

時代

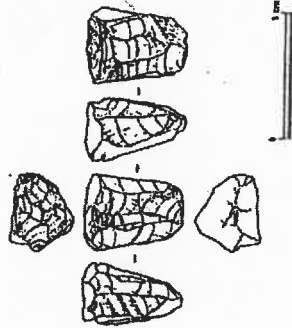
竪穴住居跡	時代
第1号住居跡	弥生時代後期
第2号住居跡	古墳時代末から奈良時代
第3号住居跡	弥生時代後期 (山中期)
第4号住居跡	弥生時代後期 (山中期)
第5号住居跡	弥生時代後期 (山中期)
第6号住居跡	弥生時代後期?
第7号住居跡	弥生時代後期?
第8号住居跡	弥生時代後期 (欠山期)
第9号住居跡	奈良時代から平安時代初頭
第10号住居跡	奈良時代から平安時代初頭
第11号住居跡	弥生時代後期 (山中期)
第12号住居跡	弥生時代後期 (山中期)
第13号住居跡	弥生時代後期 (山中期)
第14号住居跡	弥生時代後期?

4、出土遺物

出土遺物には、壺・甕・高坏等の弥生土器や、奈良時代の須恵器の坏・蓋、土師器の甕などがあります。旧市営住宅建設時の造成によって表土が削られていたため、出土量はあまり多くありませんが、小さな土器の破片でも、住居跡等の遺構の時期を決定する重要な手がかりとなります。

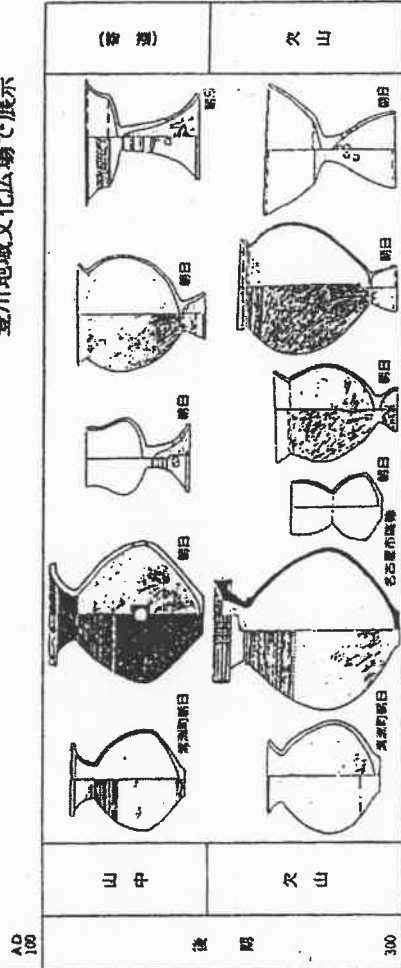
この他、第10号住居跡からは鉄釘などの鉄器が出土しており、また攪乱層からは打製石斧や凹石などの石器も出土しました。

なお、今回の調査現場の西側の畑からは、かつて石核（石刃と呼ばれる剥片を剥ぎ取った残り）が採集されており、この周辺に先土器時代（旧石器時代）の遺跡が存在する可能性があります。



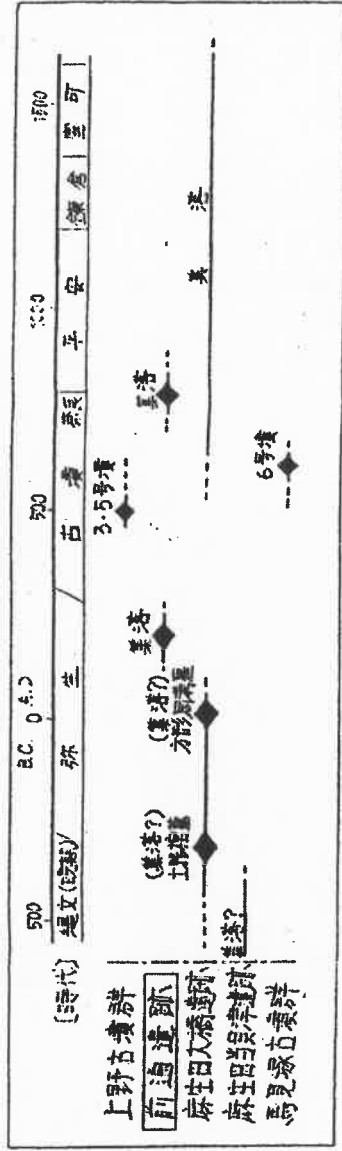
採集された石核

豊川地域文化広場で展示



弥生時代後期の土器

周辺遺跡の継続期間



5、まとめ

今回の調査では、この前通遺跡から弥生時代後期を主体とする数多くの堅穴住居跡が検出され、この地に弥生時代の大きな集落が存在したことが実証されました。

今回の調査はあくまで部分的なものであるため、この遺跡の全体像はまだつかめていませんが、遺跡は南側と西側はかなり広がっていると予想され、遺跡全体では各時代合わせると100棟を超える住居跡が存在する可能性があります。戦後の開発により、この前通遺跡のかなりの部分が既に破壊されていると考えられますが、かつての市営住宅を撤去したその下にもこうして住居跡が残っていることから、今後機会あるごとに調査を行えば、この遺跡の全体像も徐々に判明してくることでしよう。

なお、この遺跡は周辺遺跡との関連を知る上でも重要です。前通遺跡の南約500mの丘陵下にある麻生田大橋遺跡は縄文時代晩期の終わり頃頃の土器棺墓を数多く検出した遺跡として有名ですが、弥生時代中期に方形周溝墓を造った後、生活の痕跡が途絶えます。このことから、麻生田大橋の弥生人が前通遺跡に生活の場を移した可能性も考えられます。また、上野古墳群を造った背景を考える上でも、この地域の発掘調査が進展することが期待されます。